

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的な取組
学習指導	①めあて一めあてを意識した授業展開一めあてを意識した振り返りをし、何を身に付けさせるのか確実に理解して授業を行う。 ②校内授業研を充実させると共に、資質・能力を明確にした子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。 ③宿題などによる家庭学習の充実と習慣化を図ると共に基礎基本の定着を確実にする。
担当	学習研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
・令和4年度の横浜市学力・学習状況調査の結果(算数科の学力層 上段:磯子小、下段:横浜市)

どの学年も、横浜市の結果と比べ、学力A・B層が少なく、C・D層が多い。さらに、学力A層については、学年が上がるにつれて割合が下がり、市の結果との差が大きく広がってしまっている。

(2) これまでの学校の取組状況
本校の実態から、特に算数の学習に力を入れ、学ぶ楽しさを味わえるような指導の工夫を行うことで、基礎・基本の定着を図ることを目指し、令和2年度より3年計画で重点研究に取り組んでいる。

今年度の目標

粘り強く考え、「できた!」を味わえる授業を通して児童の自己肯定感を高めるとともに、算数の授業改善と授業力の向上を目指す。

目標を実現するための具体的な行動プラン

上半期	<p>本校が令和元年度より継続して取り組んでいる「自分づくり教育」の研究主題である「自分のことを好きになり、友だちと認め合いながら、地域とともに歩む子の育成」を本年度も重点研究の主題とし、算数科の学習を通してその実現を図る。目指す子どもの姿を具現化するために、低・中・高学年の部会ごとに具体的なテーマを掲げ、授業研究を通して、そのテーマに迫る手立てについて全職員で研究を進める。今年度は、行事との兼ね合いから、授業公開は年間で学年1本にしぼることになったため、例年よりも学年で取り組む意識を高めて教材研究を行い、既習事項の掲示物やワークシート等は、授業を公開するクラスだけでなく、どのクラスも同じものを使用できるようにして学びを深める。前期は特に、「みんなが分かる」、「全員が自分の考えをもてる」授業の工夫〈主体的な学び〉の充実にか力を入れて研究に取り組んでいく。</p> <p>算数科の研究が3年目を迎えるので、ここまでの2年間の成果と課題を全職員で年度初めに共有し、1時間の授業の流れや導入の工夫、板書計画、ノート指導など、全学年、全クラスで同じように取り組めるようにする。また、授業を公開する単元だけに力を入れるのではなく、年間を通して算数の力をつけられるようにするために、月に1度は推進委員会を開き、昨年度の単元の進め方を助言し合ったり、算数教具を確認し、しっかりと活用できるようにしたりする。</p>
下半期	<p>後期も算数の授業研究を通して、「自分のことを好きになり、友だちと認め合いながら、地域と共に歩む子の育成」を目指す。後期は、主に「自分の考えを友達に伝える」、「分かりやすく表現する」、「友達のことを認める」ことをめざした、目的意識をもって伝え合う場面を設定〈対話的な学び〉の充実にか力を入れ、共同思考の時間の充実を図る。ペアやグループでの学習を意図的に取り入れ、子どもたち同士で説明し合う時間を設けたり、ロイロノートを活用して互いの考えを共有しやすくしたりしていく。</p> <p>また、本校では、家庭学習への保護者への協力に偏りがあるという実態がある。学校と家庭が連携し、宿題などによる家庭学習の充実と習慣化を図るために、学年研で内容を吟味し、児童が主体的に学習に取り組めるようにしたり、学年だよりや懇談会等で保護者への協力を呼びかけ、関心を高めることができるようにする。高学年では、学校から出された課題をこなすだけではなく、自分の学習状況に応じた自分なりの課題を見付け、自主的に取り組めるようにしていきたい。</p>